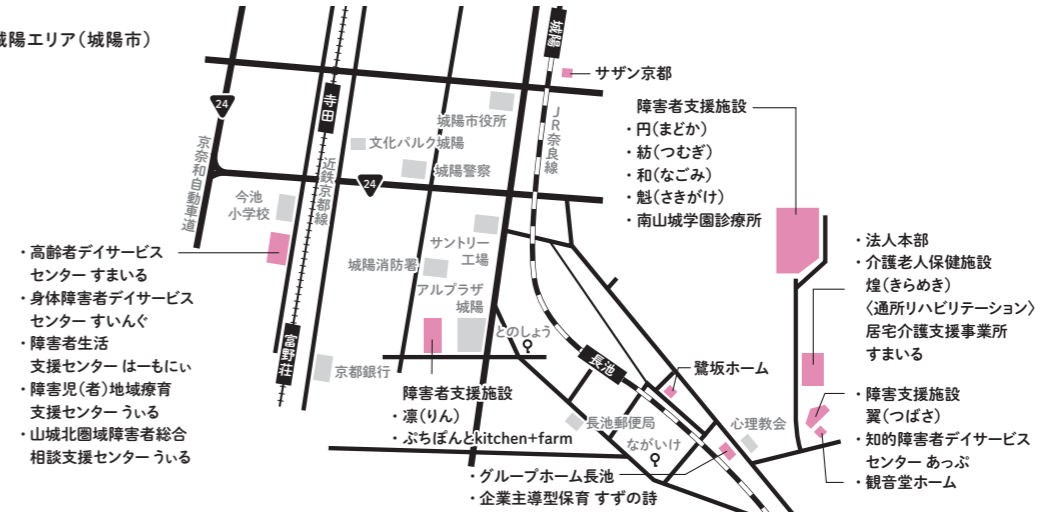




南山城学園広報誌「Something New」(サムシングニュー) 49号 令和4年9月発行 発行責任者: 磯野格 発行: 社会福祉法人 南山城学園 〒610-0111 京都府城陽市富野狼谷2番地1 TEL.0774-52-0425(代) FAX.0774-53-7578

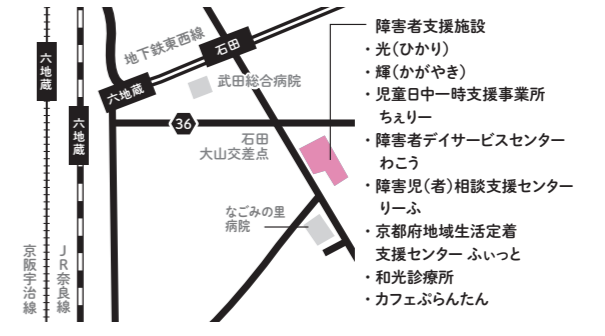
### 城陽エリア(城陽市)



### 京都市中京区・下京区エリア



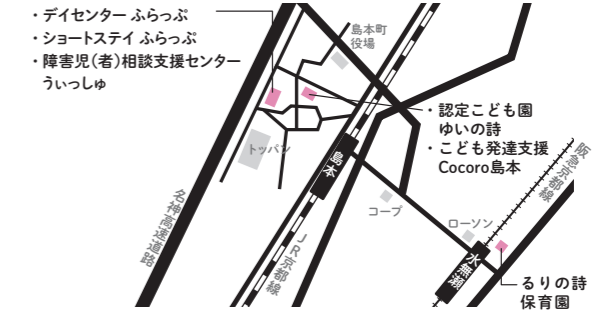
### 醍醐エリア(京都市伏見区)



### 宇治エリア(宇治市)



### 島本町エリア(大阪府三島郡)



## 編集後記

今号は「連携」をテーマにお送りしました。編集部でもこのテーマと向き合い、それぞれのコメントを編集後記とさせていただきます。

ポスターなどで目にするのは、「X」という連携のフレーズ。さまざまな対象を掛け合わせ新しい価値を創出する状況を表現しているのかもしれない。ただ、何か「しっくり」しない。そこで類語辞典を巡った。そして、「調和」に出会った。調和からは対象と対象が重なり合い奏でる風景が映し出される。私たちのかわりは「調和」なのだと思う。人と人がかわり合い、調和により「生」を演出していくのだ。そんなことを考えていると、ふとImagineが聞こえてきた。(S.I.)

日々の生活を一見平穩に過ごしていても、明日も今日と同じ朝が来るかと問われると誰にも分かりません。人や物事の「連携」や「つながり」は、不確かな日常のなかで生きるよすがになるのではないのでしょうか。内から外へ、外から内へ、ゆるやかに近づいたり離れたり、時にはしなやかに強く切れないものになる。形はどこまでも自由。一人ひとりの確かな意思でつながる連携は、心地よい居場所にもなるのだと思えます。(AS)







「大学との連携」

利用者様支援の質を向上させるため、南山城学園は中期経営計画2025のなかで「研究と実践の連携」を掲げました。企業・大学・地方公共団体などといった産学官で、多岐にわたる分野で連携を図っています。今回は、その取り組みの一部をご紹介します。

**大学と連携した人材育成。  
大学での学びを、法人での実践で身につける。**

ひとつは、大学と連携して「人材育成

## 地域福祉を切り拓く鍵は、多様な連携にあり。

成」に取り組んでいます。南山城学園では、2012年に人材育成マスタープランを作成し、法人理念に基づく研修体系を確立させました。人材育成マスタープランとは、キャリアパスに対応した研修体系と個人別研修計画を二本柱とする、法人内での職員育成システムのこと。この育成システムの重要な要素となるのが、大学と連携した職員研修です。俯瞰的な視点から、社会福祉を担う職員に必要な職業倫理や価値を学び取る機会を設け、方法論に焦点化した研修に偏重しない内容となっています。

**次世代を担う、  
質の高い人を育てる。**

また、福祉に携わる「人材確保」においても大学と連携しています。2021年に社会福祉士養成のカリキュラムが変更されたことを受け、ソーシャルワークが地域共生社会を実現するための機能として、ますます期待されるようになりまし。だからこそ、包括的な相談支援体制を担いつつ地域住民と協働する専門職の養成には、大

学と事業所とのきめ細かい連携が欠かせません。南山城学園では、カリキュラム変更前から大学と連携した実習教育やインターンシップ事業を実践してきました。大学での学びを、法人での実践を通して省察することが、ソーシャルワークの専門性を高め、次世代の担い手育成と人材確保につながると考えています。

**KOUFUKU（工・福）連携プロジェクト。  
工業と福祉の連携で、新しい仕事を創る。**

さらにもうひとつご紹介したいのが、「新しい分野を創造する」ための連携です。2021年6月から龍谷大学などの研究機関、川崎重工業株式会社などの技術系企業と連携した「KOUFUKU（工・福）連携プロジェクト」がスタート。農業と福祉を掛け合わせた「農福連携」など、近年「福祉×〇〇」というフレーズをよく目にしますが、工業（Technology）との連携は全国的にみてもめずらしい取り組みです。この取り組みのねらいは、先端技術をもつロボットと障害



「農福連携」

特集

## 研究と実践の連携

2020年に突如として猛威を振ったCOVID-19は、日本だけではなく、世界の状況を一変させました。グローバル化が進み、社会が変わる速度が加速する現代において、社会福祉法人が地域の生活課題へアプローチする役割はますます大きくなっています。地域社会のニーズに的確に応えるには、一つの法人、一つの分野だけでは役割を果たせない状況です。「連携」という2文字がいま、注目されています。

「工福連携」



者等就労を組み合わせることで、新しい仕事を創出すること。そして、産業用ロボットを活用した高付加価値の安心・安全な商品を、地域住民に届けることを目的としています。

ひと昔前までは、時代は30年スパンで変化していましたが、今では5年単位で変化しており、この流れはさらに加速するでしょう。時代の変化に伴う人々のニーズに柔軟に 대응することが、これからの社会福祉法人の大切な使命です。南山城学園はこれからも、社会福祉の実践者として「研究と実践の連携」を積極的に推進し、地域福祉の可能性を切り拓いてまいります。



大学との連携 1

キャリアサポートを協働し、質の高い福祉の担い手を輩出。

南山城学園では、次代の担い手を輩出するために、大学と連携した人育てを行っています。福祉職場のインターンシップは、単なる職場体験ではありません。大学での学びを実践現場での体験により省察することで、福祉専門職としての意識を醸成させていく。それが、福祉業界のインターンシップの醍醐味なのです。今回は、大学のインターンシップに込めた思いを、佛教大学専門職キャリアサポートセンターの金田喜弘先生にお話を伺いました。



佛教大学  
専門職キャリアサポートセンター  
金田 喜弘先生

**Q 福祉職場のインターンシップをどのように捉えていますか？**

**金田先生** 単に職場を体験するだけではなく、福祉の仕事の魅力も感じてほしいと思っています。社会福祉法人など現場実習では、施設を利用される当事者の理解や関わりが中心になります。そういう意味でもインターンシップでは違う一面も経験してもらいたい。働いている職員の姿や仕事のやりがい、魅力、ソーシャルワーカーの価値は何なのか、というところを見てきてほしいですね。このことは、特に実習を終えた学生にインターンシップで学んでほしいと思っています。なぜならそれが、自分のキャリアにつながっていくからです。職場体験で終わらせるだけでなく、体験を通じて福祉の仕事の価値や魅力に出会える機会として、インターンシップを捉えています。

**Q 福祉の魅力を感じてもらうための取り組みとは？**

**金田先生** たとえば、職員に対して学生にインタビュしてもらおう。3年目と10年目の職員に、ソーシャルワーカーとしてどんな想いをもって働いているかなど、対話してもらうことを大切にしています。現場のワーカーが何を大事しながらその行動を起こそうとしているのか、そこでの葛藤やもどかしさなども含めて、ワーカーのありのままの姿を見てきてほしいのです。その姿が自分の働く姿のイメージと重なったときこそ、福祉の魅力を本当に感じているときかもしれません。そんな機会や場になりたいと、インターンシップ先の法人には伝えています。

**Q 法人と連携して行うインターンシップの課題と期待することは？**

**金田先生** これから、地域や当事者の生活の問題に関わる時、一つの社会福祉法人だけで解決できるかという、難しいと思います。当事者から広がる大きな世界を見ていく必要があります。ですから、実践ができるだけではなく、実践の意味を考える人を育てていきたいですね。その職員は、なぜこの実践をするのか。実践の先をどのようにイメージしているのか。といった具合に、実践の意味を考え抜くことが非常に重要です。そこにソーシャルワーカーの専門性と技能(Skill)があります。インターンシップという限られた時間ですが、その技能を感じさせてほしいし、感じてほしいと思います。



**Q インターンシップにより、どのようなソーシャルワーカーを育てたいですか？**

**金田先生** これから、地域や当事者の生活の問題に関わる時、一つの社会福祉法人だけで解決できるかという、難しいと思います。当事者から広がる大きな世界を見ていく必要があります。ですから、実践ができるだけではなく、実践の意味を考える人を育てていきたいですね。その職員は、なぜこの実践をするのか。実践の先をどのようにイメージしているのか。といった具合に、実践の意味を考え抜くことが非常に重要です。そこにソーシャルワーカーの専門性と技能(Skill)があります。インターンシップという限られた時間ですが、その技能を感じさせてほしいし、感じてほしいと思います。

大学との連携 2

ソーシャルワーカーのための教育を、共に創り、実践する。

社会福祉法人の存在が、地域の人々の安心であるためには、ソーシャルワーカーとしての資質が職員に求められています。ソーシャルワーカーにとって必要な「価値」とは何か。私たち社会福祉法人の職員に求められる「倫理」とは何か。2021年度、南山城学園では、社会福祉法人が使命を果たすために必要な教育を、大学と連携し実践してきました。全3回の講師を務めていただいた同志社大学社会学部教授、空閑浩人先生にお話を伺いました。



同志社大学 社会学部教授  
空閑 浩人先生

**Q 社会福祉法人の本来の役割とは？**

**空閑先生** まず大切なことは、介護や支援が必要な方は、施設を活用する「利用者様」である前に、地域で暮らすひとりの住民であるという認識です。人の生活や人生とは、空間的、関係的、そして時間的な広がりをもつものです。人それぞれの生きかたや楽しみかたなどのライフスタイルがあります。したがって、誰かの生活を施設の中で完結させてはいけないという認識が、社会福祉法人には大切だと思います。その自覚をもつことで、日々のケアを通して、利用者様の背景にある景色が広がっていくと思うのです。利用者様が地域へ出ると、その人は誰かの友人や知り合いであり、また幼馴染であり、お店のお客さんであり、いろいろな顔があります。地域での色々な関係のなかでいろんな顔になれる、そういう機会をどれだけ保障できるか。それが、社会福祉法人の一つの役割なのではないでしょうか。

**Q 社会福祉法人の職員に求められる大切な資質とは？**

**空閑先生** 抽象的な表現になるかもしれませんが、やはり「かわり続ける」ことができることだと思います。たとえば、「利用者様の尊厳を守る」ということに対して、その人にかかわり続けることで、その人がどういう人か、その人にとって大切なことは何かなど、言わばその人の「かけがえのなさ」を具体的に見つけ出すことにつながります。一人の生活者としての、その人の背景に広がる空間的、関係的、時間的な暮らしの世界を知ることにつながります。さらに、かわり続けた経験から得た気付きや発見を自分の言葉で職場の仲間へ伝えることで、職員同士の共有や振り返り、そして今後の支援のあり方を描く機会となります。それぞれの職場や法人全体で、そんな循環ができると思いますね。

**Q そのために、南山城学園と連携しどのような研修を行っていますか？**

**空閑先生** 同志社大学の創始者である新島襄は、「諸君ヨ、一人ハ大切ナリ」という言葉を遺しました。私たちに



とって大切なことは、目の前の一人の人とその生活や人生の個性や独自性を、徹底して尊重する「意識」や「感性」を失わないことだと思います。その人を大切にすることが、その人の尊厳を守ることに繋がります。大切に思うからこそ、その人の幸福を願います。その人はどうしたいのか、その人は何を思っているのか、望んでいるのかなど、その人の側から考えることが大切です。地域には、様々な生きづらさを抱えて、孤立状態を強いられる人たちがいます。今こそ、一人ひとりの「生」が肯定され、その「尊厳」が守られる地域社会の構築のための働きが、社会福祉法人とそこで働く職員一人ひとりに求められていると思います。南山城学園の存在が、地域の人々の安心、さらには「希望」であるために、職員の皆様とともに学び続けています。





世儀 実乃里  
認定こども園 ゆいの詩

ありのように力は小さいけれど、地道にコツコツ計画的に物事に取り組みます。



空閑 美紅  
もりの詩 保育園

馬のように速くは走れないが、思い荷物を持って一步一步前に進んでいきたい。



伊藤 彩華  
介護老人保健施設 煌

どんな花とも相性の良いかすみ草のように、利用者様に寄り添います。



礒貝 光貴  
介護老人保健施設 煌

人を包み込むような優しさと暖かさで誰にでも平等に接します。



柏原 里美  
認定こども園 ゆいの詩

様々な国で使われていて、調理の仕方で大きく変わる。そんなふうに柔軟に対応できるよう頑張ります！



山田 七穂  
認定こども園 ゆいの詩

一步一步、確実に丁寧に乗り越えていくから



鈴木 愛優  
認定こども園 ゆいの詩

マイペースで素直な性格や客観的に物事を判断することができるから。



齋藤 愛恵  
認定こども園 ゆいの詩

趣味が多く、簡単に火が付いてしまうため。



阪本 実優  
障害者支援施設 紡

笑顔を咲かせるために、いつでも寄り添える広い心を持つことを常に意識しています。



大原 朋也  
障害者支援施設 円

迅速な行動があり、皆に笑顔届けられます。



佐久間 智子  
障害者支援施設 円

周りの人たちを繋げ仲良くすることが得意。たくさんの人や社会資源とのつながりを大切にしていきたいです。



佐藤 あずみ  
障害者支援施設 円

人に対して寛容で許容範囲が広いです。



山崎 詩織  
認定こども園 ゆいの詩

ゆっくりなペースではあるが、一步一步確実に前へ進みたいという気持ちを入れて「かめ」にしました



土本 佳乃  
認定こども園 ゆいの詩

周囲を観察し、自分の役割を理解し動いているから。



松原 瑠美  
認定こども園 ゆいの詩

好奇心があって、チャレンジすることが好きだから。



大前 紗月  
認定こども園 ゆいの詩

主役ではなくても他の食材を引き立てることのできるレモンのように頑張りたいと思います。



松尾 文寧  
障害者支援施設 翼

ペースはゆっくりですが、どっしりと落ち着いて一步一步前進していきます。



宮川 陽菜  
障害者支援施設 魁

周りの状況に臨機応変に対応し、狙いを定めて舌で獲物を素早くとるように、周りの人の好い所を自分のものになりたいです。



橋本 康平  
障害者支援施設 魁

すべて出し切るまで物事に取り組みます。



南 知里  
障害者支援施設 魁

どんな山も谷も越えて、人を行きたいところへ繋いでいける存在になりたいです。



奥山 麗  
事務局

たとえ思い通りにいかない時でも、花が咲き誇るまで何事にも粘り強く取り組みたいです。



井上 かのん  
認定こども園 ゆいの詩

誰にでも優しく心掛けているから



鶴山 玄  
認定こども園 ゆいの詩

人と明るく接することができ、その明るさと愛情をもって子どもたちと楽しくかかわることができるから。



小松 萌  
認定こども園 ゆいの詩

熱意と真面目さを持ち、布の折り目を付けるように、誰かの一步に繋がるような関わりを心掛けます！



佐藤 英明  
障害者支援施設 輝

収縮を繰り返して大きくなるように繰り返し学び確実に成長します。



来海 真波  
障害者支援施設 光

ペンギンのような協調性をもって南山城学園の一員として精一杯がんばります。



山口 航平  
障害者支援施設 凜

一步一步を着実に進み、成長していきます。



井口 美有  
障害者支援施設 凜

まっすぐ太陽に伸びるひまわりのように、明るい笑顔でみんなを笑顔にし、たくさんのご事を吸収して高みを目指します。



福本 玲  
事務局

温かくやわらい雰囲気、たくさんの人を笑顔にできる存在になりたいです。



大橋 和也  
介護老人保健施設 煌

優しさと包容力で利用者様をあたかく包み込むような支援者になりたいです。



増田 百香  
介護老人保健施設 煌

花言葉は「幸福」、「感謝」。花束に加えると中心の花が一層際立つように、関わる方々の魅力を引き出せる存在になりたいです。



今後 美泉  
障害者支援施設 輝

調理次第で色々なものに形を変え、たまごのように、利用者様一人ひとりにあった支援員になりたいです。



佐藤 楓  
障害者支援施設 輝

成長スペースはゆっくりですが、いつか大木となり皆様にいやしの日陰をつくれます。

## 新規採用総合職 職員紹介

2022年度は33名のフレッシュな職員が入職しました

お題 私を何かに例えると〇〇です [名前・配属先・お題の理由]